

短歌（投稿順）

地震・豪雨、深傷果てなき能登の地よスーパームーンも潤みて悼む
クリスマス皆が聴くのは達郎か俺とお前はイマジンで寝る
秋になり鍋焼きうどんのつゆ作り味見のために両神に登る
八十路とて元気そのもの山さんは見事な技にハチの巣をとる
世の乱れオレオレ詐欺も未だ絶えず闇バイト職なる若者悲し
年金者生活苦し物価高資本主義でも不安な社会
鎌を持ち家族総出で稲を刈る嫁ぎ来る前遠き思い出
ひと日終へちちろの声を聞きながら書きし手紙は入院の友
鷹にでも襲われたのか山鳩はサッシに激突哀れ息絶ゆ
山里に寒さの到来身に沁みて炬燵備へて冬を迎へる
昨日は夏日明ければ冷雨ひもすがら身を守る手立て定まらず
山の木々赤や黄色に色づいて色競り合いて山は絶景
龍勢の霞む煙か紫金山・アトラス彗星伸ばす白き尾
彗星は太陽系の最果てをふるさとして往きて帰らぬ
児玉すぎ吉井で左折長瀬え暇なドライブ北だ南だ
りんどうの花見るたびに口ずさむ映画の主題歌「月よりの使者」
防犯の一助となるか花の町色合い宜しきビオラ苗植う

三沢 眞下 杏子
皆野 石原 達也
皆野 大澤 貴夫
皆野 萩原 初恵
皆野 根岸 詩子
上田野沢 四方田利男
下田野 新井 節子
国神 藤原マキ子
下田野沢 浅見 豊子
三沢 新井 民子
三沢 新井 叶子
下田野沢 大植 高志
皆野 打木 昭廣
皆野 太幡琉美花
皆野 戸塚喜久雄
皆野 村田ハツ代
皆野 引間 万亀

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 17 句

爽籟や手水舎の龍波しずか 皆野 太幡琉美花
 (評)爽籟とは秋風の爽やかな響きや清々しい風を意味する季語。秋風に誘われて参拝に出かけた作者。大鳥居を潜ると奥には神木、大木に囲まれた荘厳な神殿があり身の引き締まる思いです。手水舎の蛇口は青銅の龍。炎を吐くような荒々しい貌ですが、口からは細い水が波も立てないほどゆるやかに落ちて手を清めてくれます。龍の小さな水音、境内の静寂、爽籟に浸る作者です。龍の水に着眼した秀句です。二句目、多くの手間をかけての米作り。作者の稲は今年も豊作です。稲架掛けもきれいに出来て、青空の下での小昼飯の味は格別です。元気で働けることに感謝し和やかで楽しいひと時。小昼飯が素朴で温かいです。三句目、大昔秩父神社の木を移植したという樹齢七百年の大銀杏。青空を突くように奔放に伸びた黄葉に元気をもらえます。青と黄のコントラストを捕らえた良句です。
 稲架掛けし碧空の下小昼飯 皆野 島 弘
 丹誠の大文字草日に映ゆる 皆野 村田ハツ代
 天高く枝奔放に大銀杏 国神 赤木圭一郎
 山茶花を一枝手折り今朝の卓 下田野 新井 節子
 弾けそうな孕み蟪蛄軒下に 三沢 眞下 杏子
 此処に居る私の不思議冬銀河 皆野 萩原 初恵
 白駒の湖面に映える初紅葉 皆野 櫻井 早苗
 SLを待つか撮り鉄野路の秋 皆野 引間 千鶴
 喜寿祝ふ同窓の和や実南天 三沢 新井 民子
 住む地球戦火は消えず泡立草 上田野沢 四方田利男